

令和7年度 前期日程

「小論文（国際学部国際学科）」の出題の意図

国際学部のさまざまな専門分野において重要概念となっている文化、社会、民族、アイデンティティ、言語等を含む話題の提示を受けて、考え、自説を根拠とともに論じてもらう問題である。個々の概念についての明確な理解や、概念間の関係性の整理と把握が解答者には求められる。母語として日本語を話す人の大半が日本人であるというよく知られた一般的傾向から逸脱したマイノリティの存在など、議論に関連する具体的な事象に対する関心も、解答から明かになる。

評価の基準：

1. 著者の説明を理解し要約できているかどうか

著者の主張は、1) 母語として日本語を共有していることが日本人の民族性を決定づけるものでも、共同体の文化の根幹となるものでもないこと、2) 言語を文化の1つと捉えつつ、言語が話す場面や相手によって無数の異なったかたちを取り得る自己のアイデンティティを映し出すものである、ということである。

2. 賛否のいずれかによらず、具体的な事例を根拠として、自身の意見を論理的に表現できているか

賛成の立場からは、言語にもとづく偏見に抗してマイノリティの立場を擁護する議論、個人の言語表現の多様性への着目などが導かれよう。また、反対の立場からは、言語が均質でも単一でもないことは認めつつも共通かつ不変の部分が文化の独自性に寄与し得るという主張、言語には核となる共通部分があってそれがアイデンティティ形成に大きく影響するという主張などが導かれよう。